

このたび、監事の役をいただくことになりました。

お話をいただいた時、「監事」の役割は何ですかと先輩役員の方に尋ねたところ、「理事の業務執行の状況や SLA の財産の状況について理事に意見を述べる」などと教えていただきました。

7期生として受講して以来3年が経過しようとしています。この間私はお世話になるばかりでしたので、何かのお役にたてるならと思いきり今回お引き受けすることにしました。

物事を頼むとき、その人にできないと思うようなことは頼まないと聞きます。

また、頼まれたことには、「はい」か「YES」で答えなさいとも。

これからどうぞよろしく願いいたします。



さて、私は今年3月に高齢者の仲間入りをした団塊の世代の一人です。

団塊の世代が定年退職を迎えるとき、「2007年問題」また「2012年問題」と騒がれましたが心配されたほどの大問題は起こらなかったのですが、この世代が後期高齢者となる2025年以降はどんなことになるのでしょうか。

「2025年問題」として深刻な問題だと懸念されていますが、その後しばらくはさまざまな

支援が必要な高齢者が増加しても、限られた財源や人材の枠の中でシェアしていくしかありません。保険料や医療費、税などの負担増の一方で介護や医療、年金などの給付減、私たちはいったいどのような形で人生を全うするのでしょうか。

行政も様々な対策を検討していますが、限界があります。健康寿命の延伸のため、自らができることは自らがなくては。

難しい病気はさておき、いわゆる“生活習慣病”といわれる病気は普段からの健康づくり（運動、栄養、休養のバランス）を実践することで防ぐことができるのですから。

身体面、経済面、社会的な面においては自助努力の効果も期待できるでしょうが、こと「認知症」に関してはなかなか難しい問題があるかと思われま。

人には、「教養」と「教育」が必要といわれます。

既にご存じのとおり、教養は「今日、用がある」。教育は「今日、行くところがある」に通じます。自宅にこもらず出かけて行ってできるだけ多くの人に出会い、心身の健康を維持し、また、ネットワークを築いておくことで軽度の認知症ならサポートし合えるのではないかと考えたりします。

SLAの講義を受けたとき、財団の理事長が「アドバイザーは、まず、自分に対して」とお話しされました。大がかりなことはできないとしても、まずは自分のこと、それから身近な人にSLAの精神を伝えていけたらよいと思います。「今日用と今日行く」を多くの高齢者が実践できるようになるために。